

平成24年6月8日京都新聞



熊谷 もも 略歴

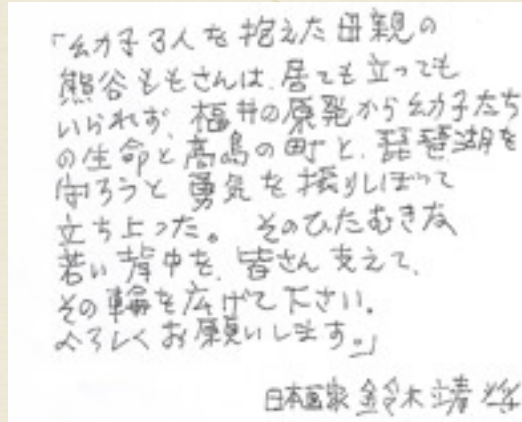
- 1977年 京都市生まれ
- 1999年 京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業
学生時代は千本商店街モニター
「芸術祭典・京」地球温暖化防止
京都会議COP3ボランティア
- 2010年 「銀行がナイショにしてるお金のひみつ」
出版 NHK「日本のこれから」出演
- 2011年 2月 20年間空き家であった安曇川の
祖父母の古民家に家族とともに2世代ぶりのUターン移住。
4月 「原発大震災の真実」
チャリティー講演会を大津で開く
8月 TPPの勉強会を安曇川で開く
- 2012年 4月 高島がれき資料室を立ち上げる
7月 高島音頭総踊りに参加、地域それぞれの個性ある文化を体感する。

家族構成

夫と7才の長女、
5才の長男、3才の
次女の5人家族。



応援者の声



鈴木靖将先生 日本画家、創画会会友。万葉集をモチーフに絵を描き続けている。大津市在住

ももさんは、地域循環型経済を分かりやすくやさしく説明することができ、思いついたらすぐに実践できる行動力のある人です。野末雅寛

座右の銘 中江藤樹先生の言葉

「人間はみな善ばかりにして悪なき本来の面目を良く観念すべし」「知行合一」

私の思い

政治を身近なものに

高島の自然と文化と、食べ物のおいしさと、人の温かさに魅かれて、夫と3人のこどもたちと帰って参りました。母親としてこどもの健康と安全に関心ではられません。高島がれき受入問題に関わり、毎日の暮らしと政治がつながっていると実感しました。高島の良さを守り生かすことは、こどもたちの未来を開くこと。ママ、パパ、若者、おじいちゃん、おばあちゃん…みんなの声を高島市政に生かします。

討議資料

子育て世代の声を 高島市政に 届けよう



熊谷 もも

△母①△母母

熊谷ももと高島市の良さを生かす会
〒520-1217 高島市安曇川町田中484
電話&FAX 0740-20-1406 携帯 080-3824-3724
HP <http://momo-takashima.jimdo.com/>



高島市の良さを生かして



高島・安曇川・朽木・新旭・今津・マキノそれぞれの良さと強みを生かして

こどもは地域の宝

子育て世代の暮らしを支えるため、こども1人あたり月1万円相当の地域通貨を各家庭に支給する「高島こども手当」を提案します。こどもを地域で守り育み、地域に活気を還元します。



駅前商店街を生かして

商店街の空き店舗はさびしいものです。空き店舗に新しく自分のお店を持ちたい若者や女性がチャレンジできるよう市が仲介して応援することを提案します。歩いて楽しい商店街のにぎわいをよびましょう。



お年寄りの知恵と技術を生かして

人生のベテランから知恵と技術を学ぶことで、次の世代に地域の伝統や文化、記憶をしっかりとつなぐことができます。学区単位の交流機会を積極的に設けます。

衣食住まかなえる強みを生かして

繊維工業の見学や体験を通して、高島ちぢみや帆布の良さを。親子での農業体験や、地元の酒蔵をはじめ食品製造の見学は食育です。地元の誇りを伝え、衣食住を地域でまかなえる高島だからこそ、後継者が暮らせる幸せな経済を。

衣

繊維工業



住

林業・材木



食

農業・醸造



京都より古い歴史と文化を生かして

高島は継体天皇の縁の土地であり、ホツマツタエなど秘宝も数多く眠っています。奥深い歴史ロマン脈打つ高島をもっと全国的にアピールします。

豊かな自然環境を生かして

帰って来てほっとする高島。のどかな田園風景はおいしい農産物の産地であり、こどもが走り回る場であり、そして環境観光資源です。高島に何を求めて観光に来るのか。調査結果の第一位「手つかずの自然」です。



里山と人を生かして

山に放置されている間伐材を市が市場価格の倍額の地域通貨で買い取り（京丹後市で取り組みが始まっています。）市内の公共施設の暖房を薪ストーブでまかなう、里山も商店街もみんな豊かになるしくみを提案します。